

放射線部門

現行の放射線分科会では、X線や γ 線の電磁波及び中性子線を利用した透過試験方法を中心に調査研究を行っています。最近では、電子技術の発展に伴って、イメージングプレートや半導体検出器を撮影媒体としたデジタルシステムが開発され、X線フィルムによるラジオグラフィに加え、デジタルラジオグラフィが実用化されるようになり、X線を利用したトモグラフィ技術によって精密な三次元的な検査も可能となりました。また、放射線透過試験の利点が再認識され、中性子ラジオグラフィの適用分野の拡大、中レベル（400 kV～800 kV）X線発生装置の開発、低エネルギー γ 線源の開発がはかられています。

放射線部門では、放射線分科会の活動を引き継ぎ、デジタルラジオグラフィの普及及び中性子ラジオグラフィの適用分野の拡大を目指して活動を行う予定です。年3回の討論会を通じて、技術者と研究者との交流及び情報交換の場を提供し、また、2年に1回、放射線安全管理等も含めた広い内容の放射線シンポジウムを開催し、非会員の方々にも参加いただいて情報収集や研鑽の機会を広めます。

平成22年4月現在、「デジタルラジオグラフィ研究委員会」と「中性子ラジオグラフィ研究委員会」の二つの研究委員会が設置され、技術の普及、適用拡大をはかっています。

【キーワード】

放射線透過試験 (RT)、中性子ラジオグラフィ (NRT)、デジタルラジオグラフィ (DR)、コンピューテッドラジオグラフィ (CR)、X線トモグラフィ (CT)、X線発生装置、 γ 線源、イメージングプレート (IP)、フラットパネルディテクタ (FPD)、放射線安全管理